罹患の概要

■ 最新集計について

集計の期間

罹患年月日が平成 27 (2015) 年 1 月 1 日から 12 月 31 日の間の 1 年間。過去の罹患年についても再集計。

集計の時期

平成 29 (2017) 年 11 月 10 日現在

罹患年月日の決め方

① 届出による登録例は初めて当該がんと診断された年月日を罹患年月日とする。

② 届出がなく、死亡小票の写しによってがん罹患が判明した例は、死亡年月日をもって罹患年月日とする。

集計の対象

① ICD-O-3 分類の性状 2 (上皮内), 3 (悪性、浸潤性) で示される新生物

② DCO 例については、①に加えて、ICD-O-3 分類の性状 1 (良性・悪性の別不詳：例 悪性の明示のない○○腫瘍) で示される新生物による死亡で、部位が脳、肝、膵、腎、膀胱、肺

精度指標

DCN：9.3%

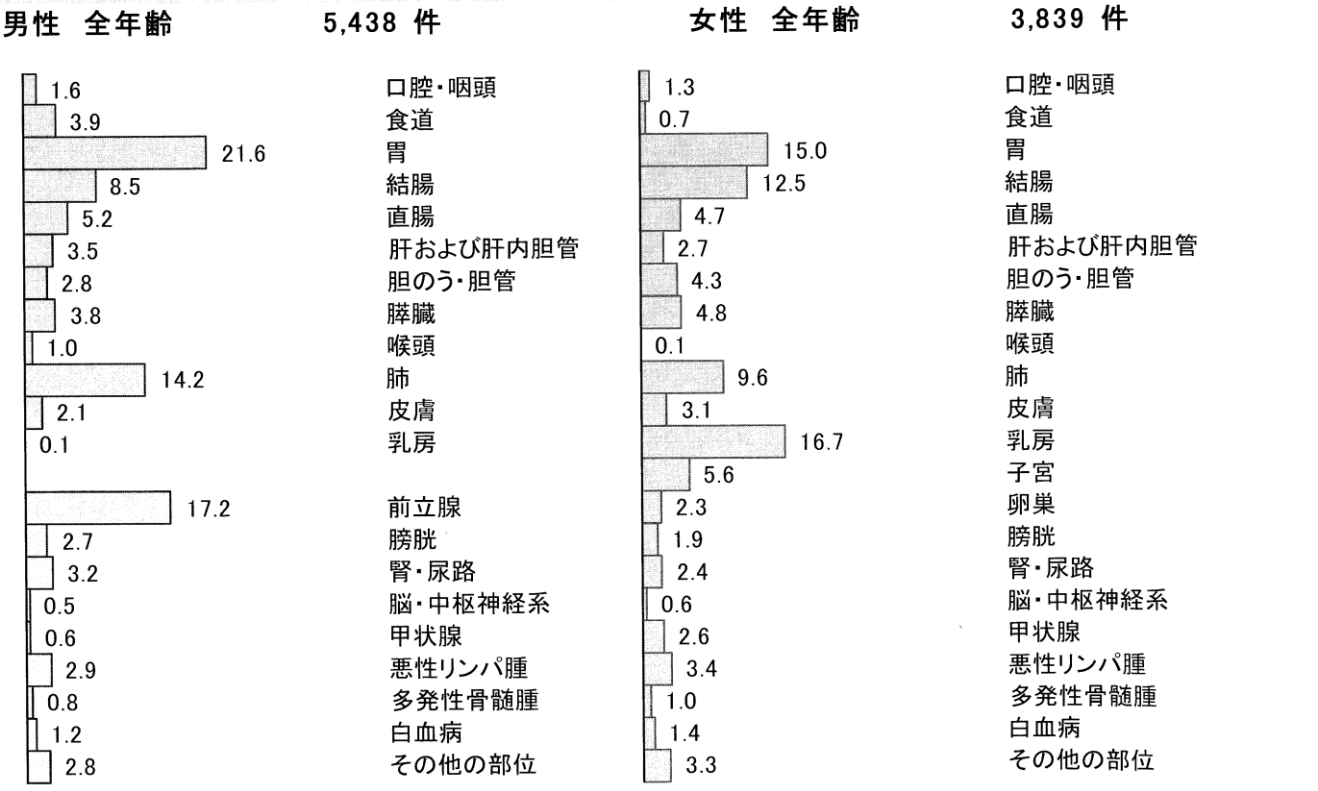
国際 DCO：3.4%

I/M：2.3

■ 罹患の概要

2015 年に山形県において、男性延べ 5,438 件、女性延べ 3,839 件の、合計延べ 9,277 件 のがんが、新たに診断された。男性で最も多いがんは胃がんであり、前立腺、肺、結腸、直腸、食道と続く。女性で最も多いがんは乳がんで、胃、結腸、肺、子宮、膵と続く (図 1)。

図 1 部位内訳 (%) (表 1-A から作成)



年齢別に見たがんの罹患

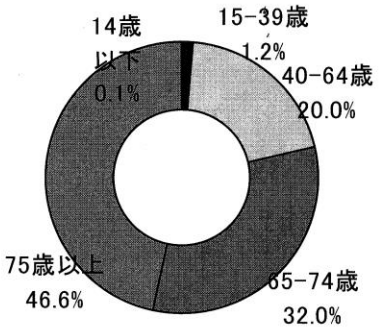
年齢別では 2015 年に新たに診断されたがんの約半数が 75 歳未満であった。15 歳未満の罹患、いわゆる小児がんは、2014 年は 15 例で、2015 年は 17 例であった（図 2）。

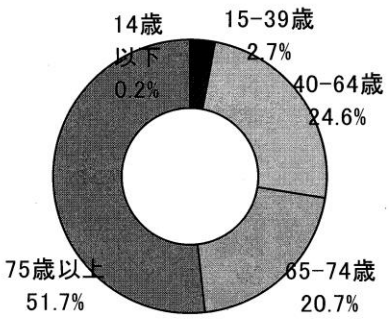
15 - 39 歳女性では、乳房が 30.8%と最も多く、次いで子宮 22.1%と続く。40-64 歳で罹患数の多い部位は、男性では胃 23.1%、前立腺 12.3%、肺 11.3%である。女性では乳房 32.8%、子宮 11.5%、胃 7.7%であった。(図 3)。

罹患率をみると、ほとんどの部位のがんは年齢が高くなるほどかかりやすい。前立腺がんは、70-75 歳にピークがあり、80 歳以上では減少する。女性の乳がんは、45-49 歳の小さいピークと 60-64 歳のピークのダブルピーク型であるが 50-59 歳の罹患も多く全体としてピークは小さい。子宮頸部は、30 歳からの罹患が増え始める。子宮体部は 50-54 歳、60-64 歳の年齢層でのダブルピークとなっている。(図 4)

図 2　年齢別内訳（%）　（表 2-A から作成）

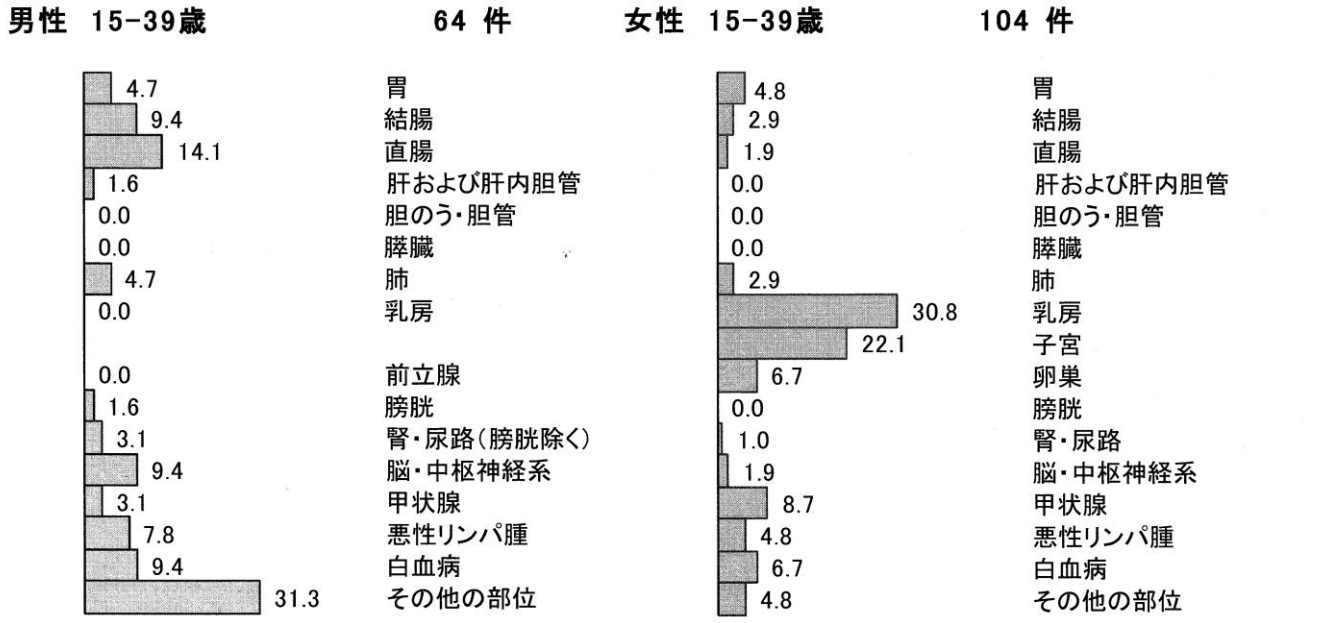
	男性
14歳以下	8
15-39歳	64
40-64歳	1,090
65-74歳	1,742
75歳以上	2,534
合計	5,438



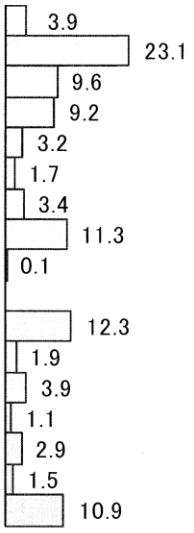


女性	
9	14歳以下
104	15-39歳
944	40-64歳
796	65-74歳
1,986	75歳以上
3,839	合計

図 3　年齢別部位内訳（%）　（表 2-A から作成）

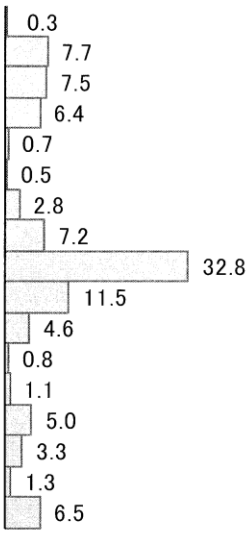


男性　40-64歳　　1,090 件



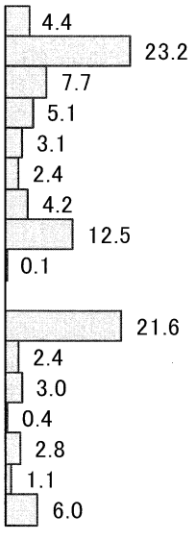
食道
胃
結腸
直腸
肝および肝内胆管
胆のう・胆管
膵臓
肺
乳房
前立腺
膀胱
腎・尿路（膀胱除く）
甲状腺
悪性リンパ腫
白血病
その他の部位

女性　40-64歳　　944 件



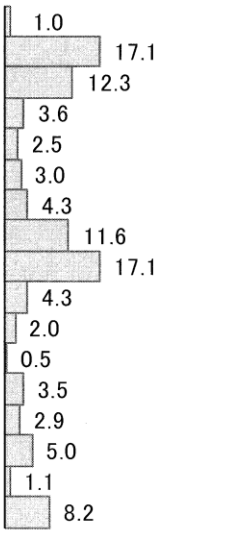
食道
胃
結腸
直腸
肝および肝内胆管
胆のう・胆管
膵臓
肺
乳房
子宮
卵巣
膀胱
腎・尿路
甲状腺
悪性リンパ腫
白血病
その他の部位

男性　65-74歳　　1,742 件



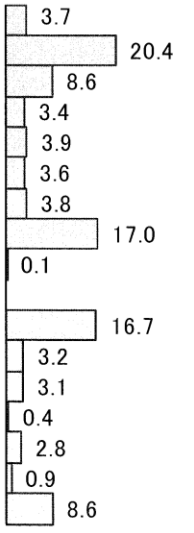
食道
胃
結腸
直腸
肝および肝内胆管
胆のう・胆管
膵臓
肺
乳房
前立腺
膀胱
腎・尿路（膀胱除く）
甲状腺
悪性リンパ腫
白血病
その他の部位

女性　65-74歳　　796 件



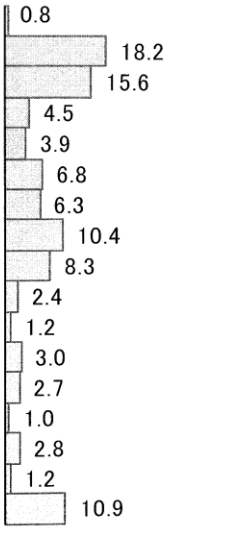
食道
胃
結腸
直腸
肝および肝内胆管
胆のう・胆管
膵臓
肺
乳房
子宮
卵巣
膀胱
腎・尿路
甲状腺
悪性リンパ腫
白血病
その他の部位

男性　75+歳　　2,534 件



食道
胃
結腸
直腸
肝および肝内胆管
胆のう・胆管
膵臓
肺
乳房
前立腺
膀胱
腎・尿路（膀胱除く）
甲状腺
悪性リンパ腫
白血病
その他の部位

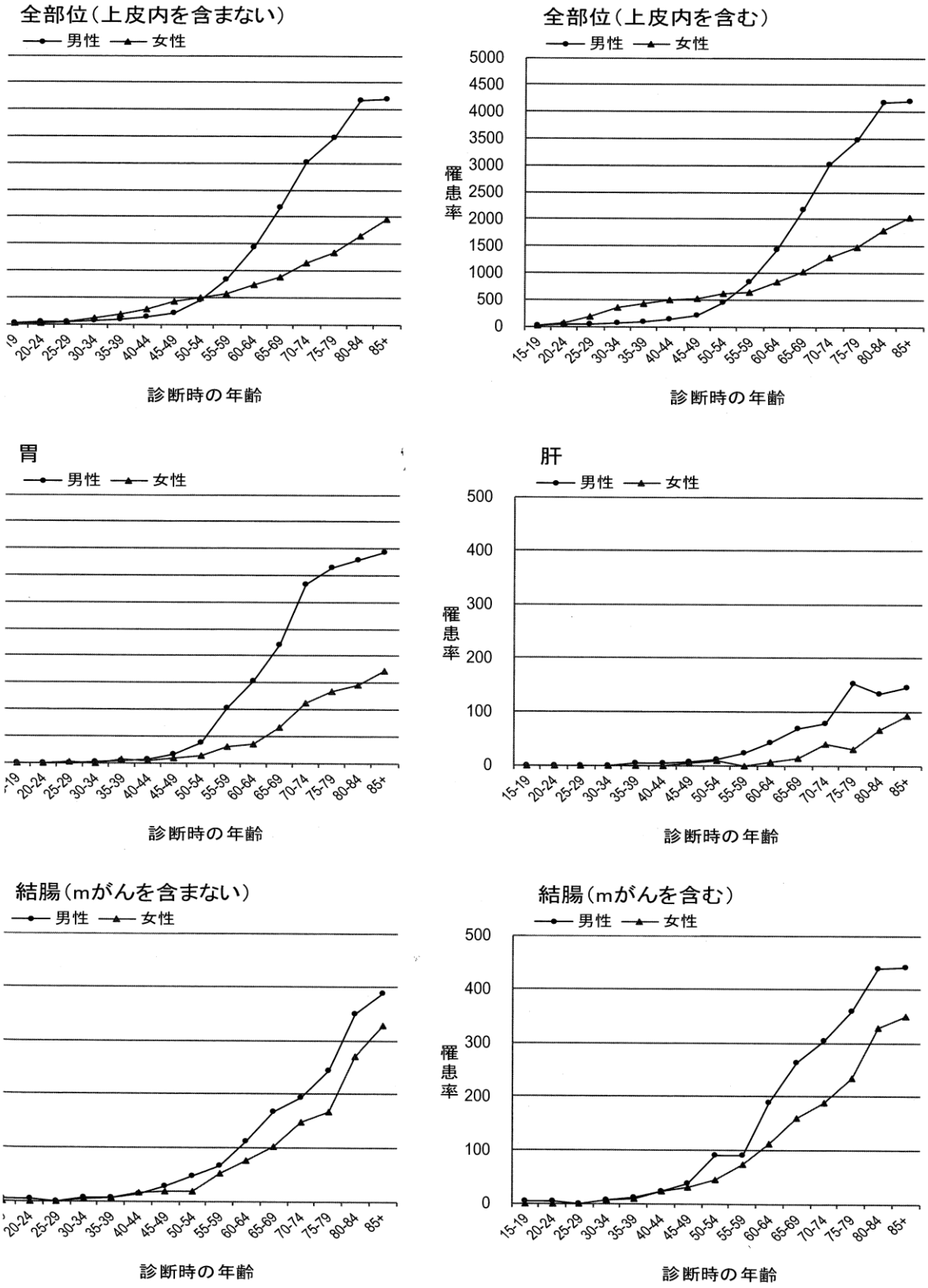
女性　75+歳　　1,986 件



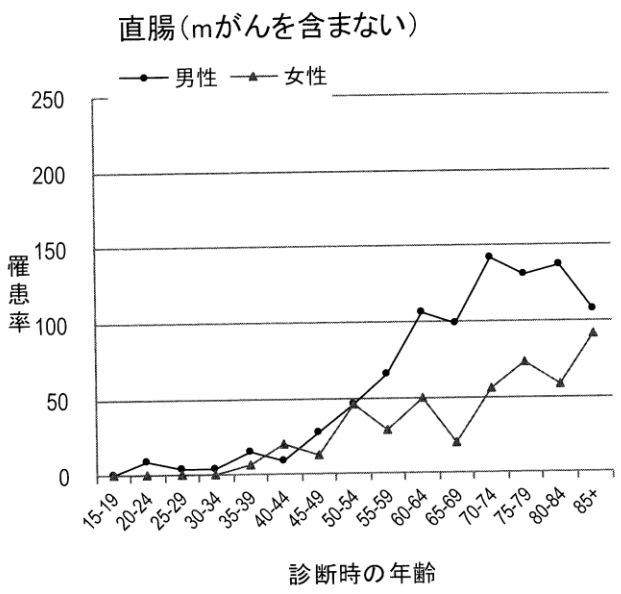
食道
胃
結腸
直腸
肝および肝内胆管
胆のう・胆管
膵臓
肺
乳房
子宮
卵巣
膀胱
腎・尿路
甲状腺
悪性リンパ腫
白血病
その他の部位

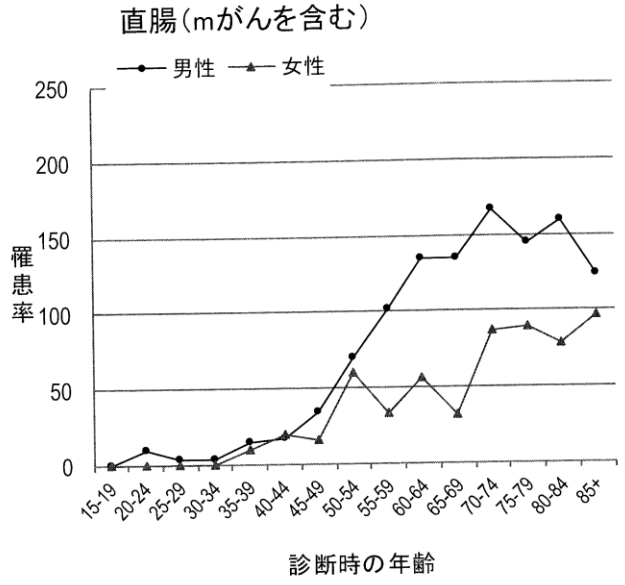
図 4　部位別年齢階級別罹患率：人口 10 万対　（表 3-A、B から作成）

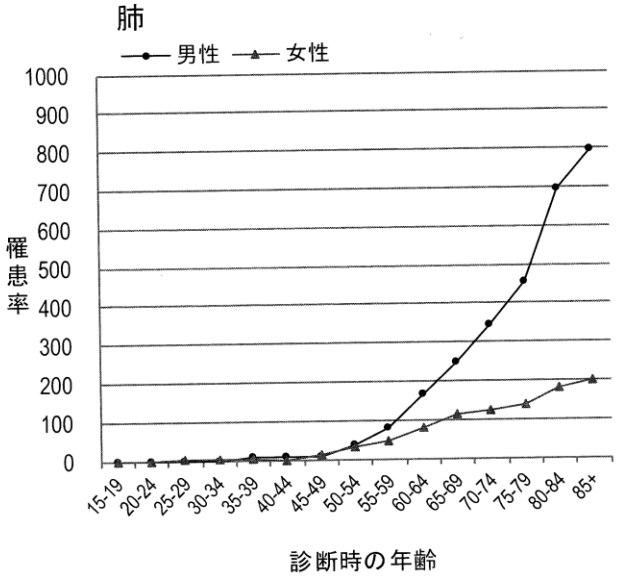
年齢階級別罹患率

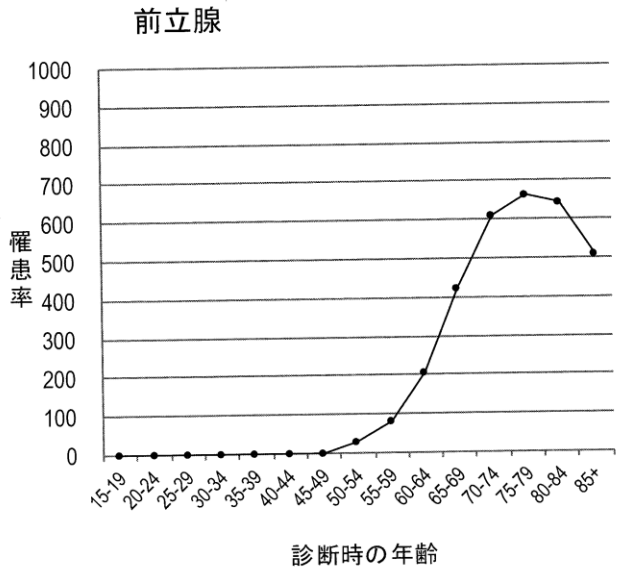


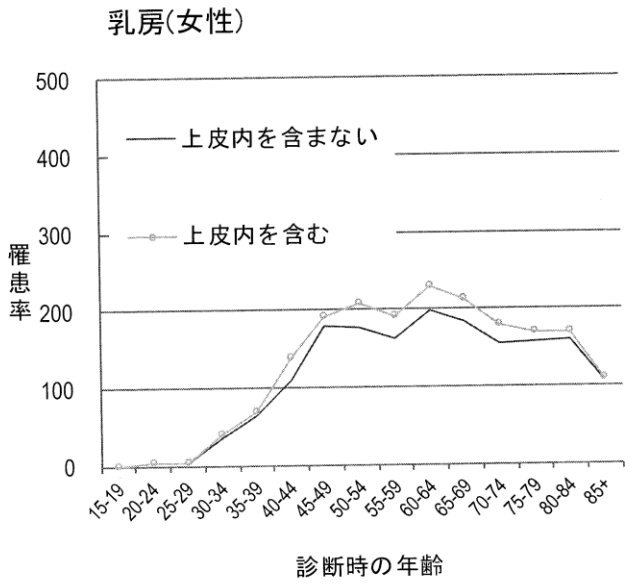
注）　m がんについて：我が国の地域がん登録では、大腸（結腸及び直腸）の粘膜内がん（m がん）は上皮内がんとして扱う。

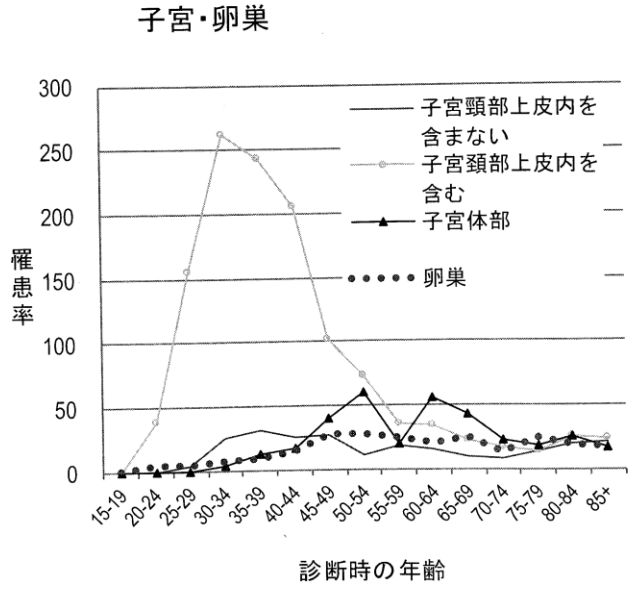

直腸（mがんを含まない）
男性
女性
罹患率
250
200
150
100
50
0
15-19
20-24
25-29
30-34
35-39
40-44
45-49
50-54
55-59
60-64
65-69
70-74
75-79
80-84
85+
診断時の年齢


直腸（mがんを含む）
男性
女性
罹患率
250
200
150
100
50
0
15-19
20-24
25-29
30-34
35-39
40-44
45-49
50-54
55-59
60-64
65-69
70-74
75-79
80-84
85+
診断時の年齢


肺
男性
女性
罹患率
1000
900
800
700
600
500
400
300
200
100
0
15-19
20-24
25-29
30-34
35-39
40-44
45-49
50-54
55-59
60-64
65-69
70-74
75-79
80-84
85+
診断時の年齢


前立腺
罹患率
1000
900
800
700
600
500
400
300
200
100
0
15-19
20-24
25-29
30-34
35-39
40-44
45-49
50-54
55-59
60-64
65-69
70-74
75-79
80-84
85+
診断時の年齢

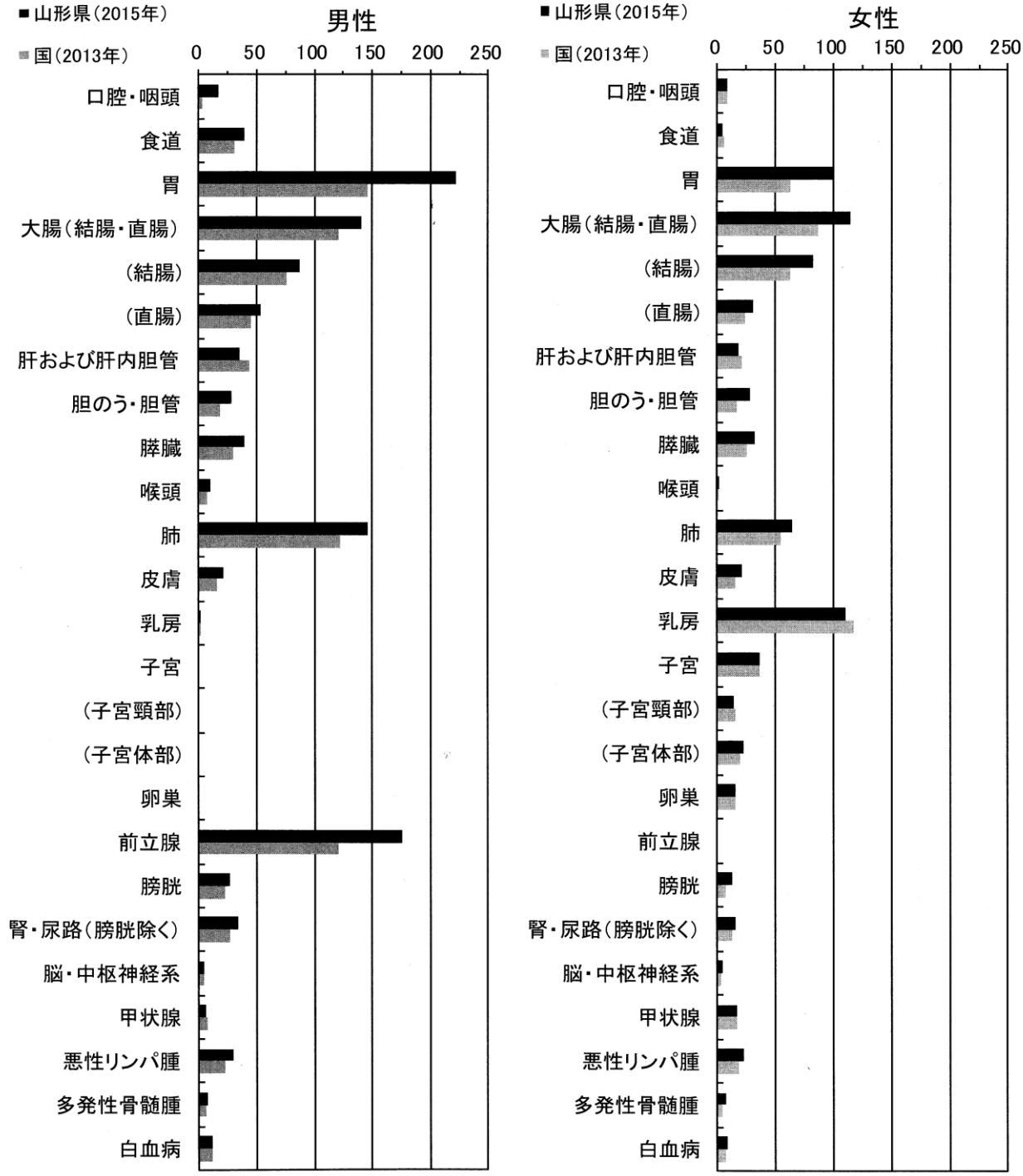

乳房（女性）
上皮内を含まない
上皮内を含む
罹患率
500
400
300
200
100
0
15-19
20-24
25-29
30-34
35-39
40-44
45-49
50-54
55-59
60-64
65-69
70-74
75-79
80-84
85+
診断時の年齢


子宮・卵巣
子宮頸部上皮内を含まない
子宮頸部上皮内を含む
子宮体部
卵巣
罹患率
300
250
200
150
100
50
0
15-19
20-24
25-29
30-34
35-39
40-44
45-49
50-54
55-59
60-64
65-69
70-74
75-79
80-84
85+
診断時の年齢

山形県のがんの罹患の特徴

日本全体の推計値と比較してほぼすべての部位において、本県の罹患率が高かった。本県の人口の高齢化率が高いことがその要因の一つと考えられる。特に、男女ともに胃がんの罹患率が明らかに高い。全国と比べ男女とも罹患率の低い部位は肝および肝内胆管、甲状腺である。男性はこれ以外の部位は全て全国値と比較し罹患率が高い。女性は食道、喉頭、乳房、子宮頸部で全国値より低い罹患率となった。

図 5　部位別がん粗罹患率：人口 10 万対　（表 1-A から作成）



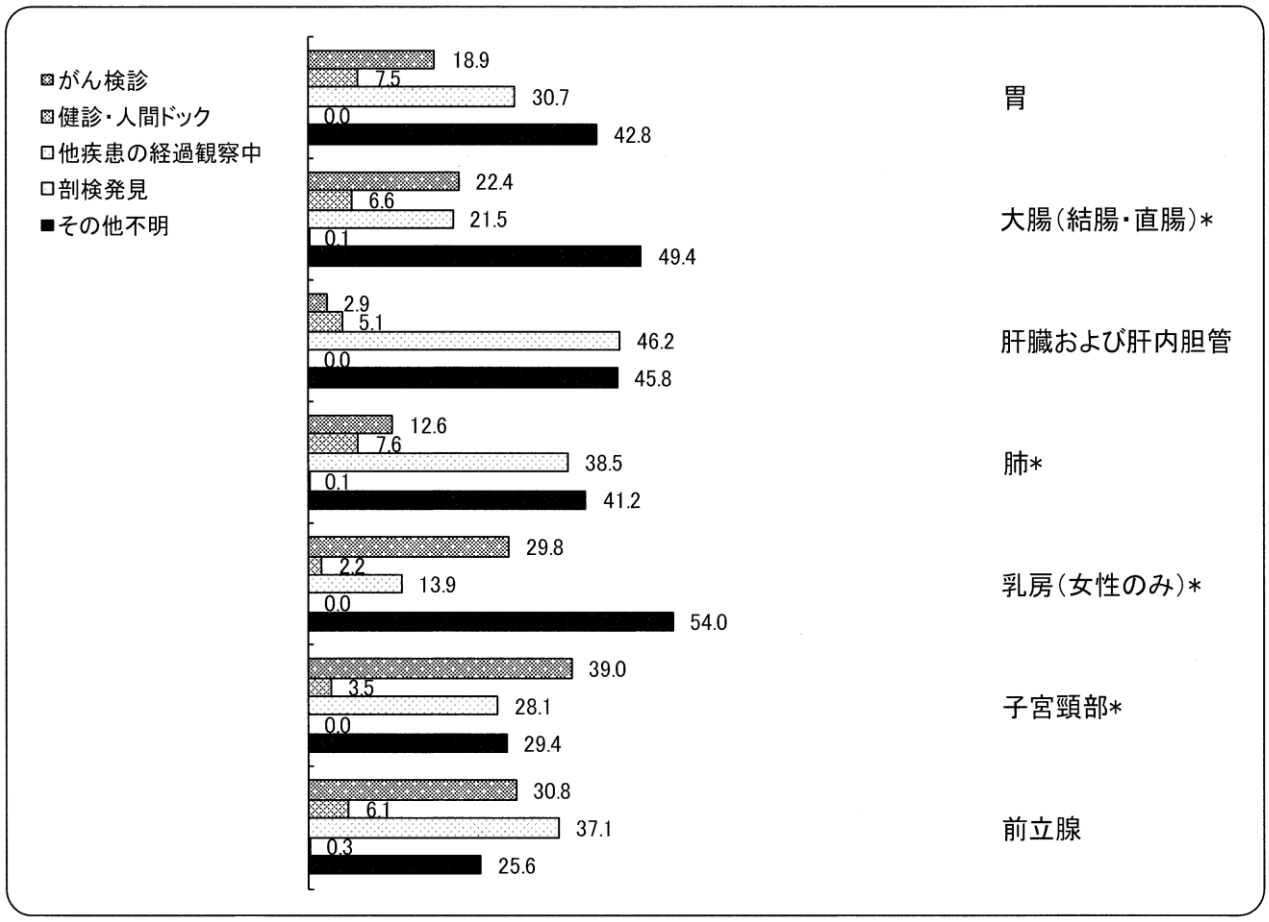
国の値は、がん対策情報センター発行　「全国がん罹患モニタリング集計　2013 年罹患数・率報告」より引用。

発見経緯

一般に住民検診が実施されている胃、大腸、肺、乳房、子宮頸部において、がん検診もしくは健康診断や人間ドックが発見の契機となった症例の割合は、胃　26.4%、大腸　29.0%、肺 20.2%、乳房　32.0%、子宮頸部　42.5%であった。前立腺がんは一般に住民検診が推奨されていないが、30.8%であった。

検診実施部位においては、検診等による発見の割合が増加することで、早期発見による死亡率の減少につながることとなる。その他・不明には有症状による医療機関受診時の発見が含まれる。検診実施部位においては、その他・不明の割合が減少し、検診等で発見された割合の増加が望まれる。

図 6　部位別発見経緯（%）：対象は国内 DCO を除く届出患者　（表 4-A、B から作成）

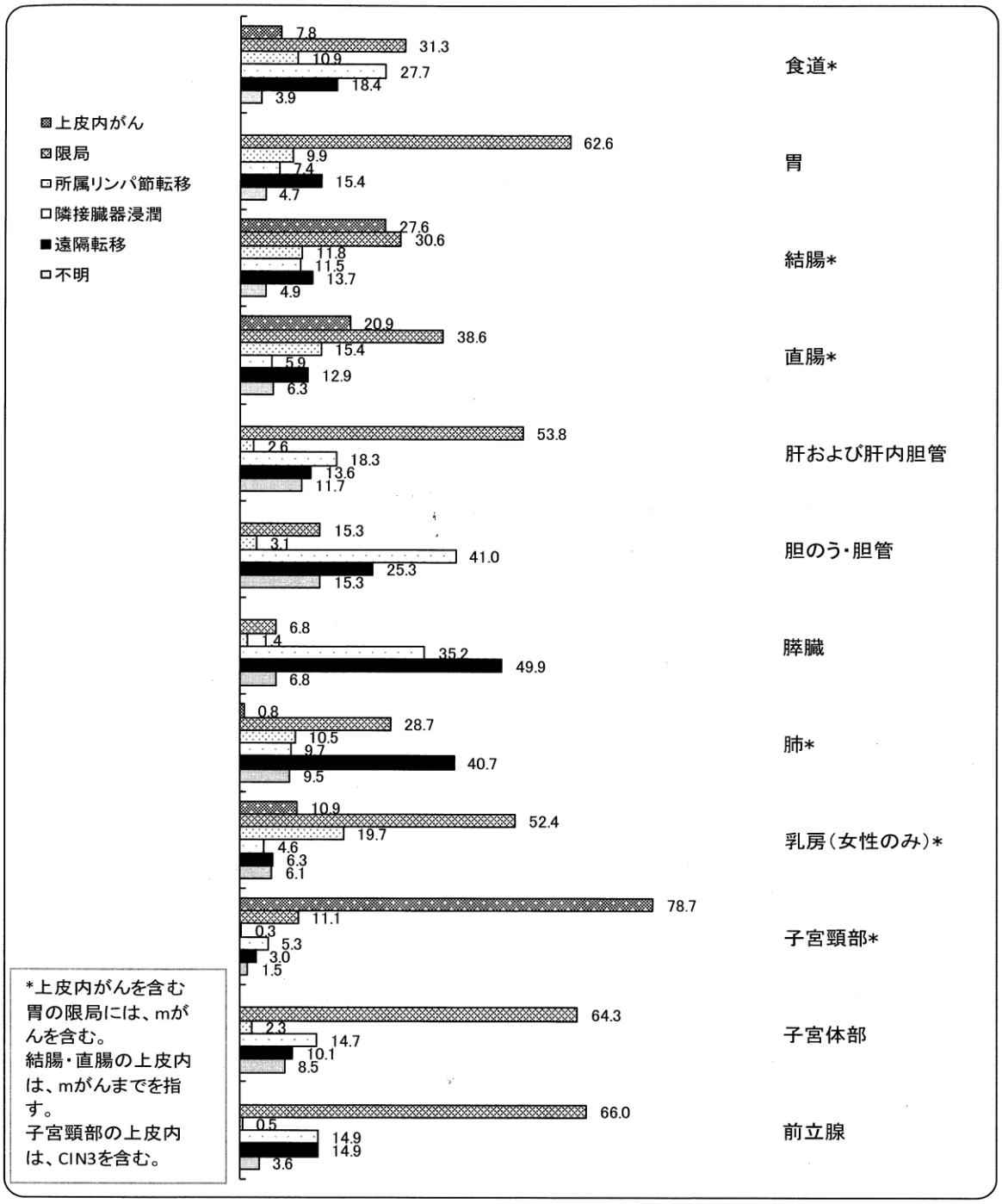


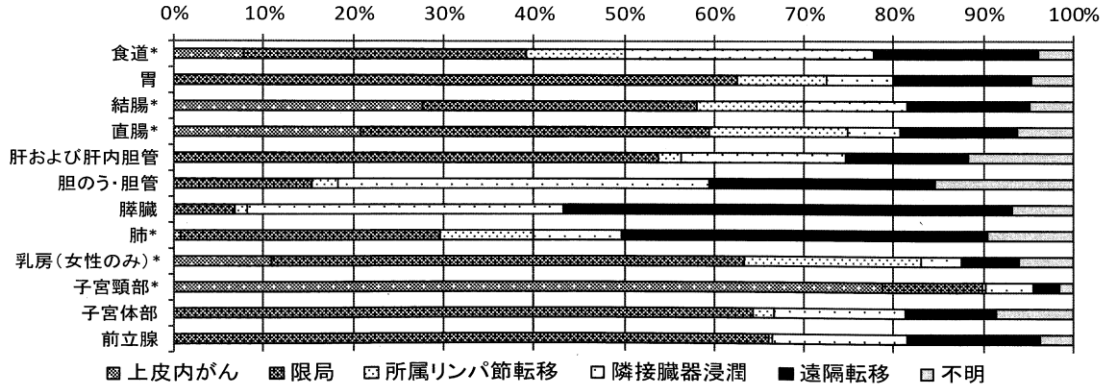
＊　上皮内がんを含む

病期

胃、結腸、直腸、肝および肝内胆管、女性乳房、子宮頸部、子宮体部、前立腺では、発見時に上皮内がん、限局がんであった割合が 50%以上を占める。前立腺がんでは、住民検診の実施が、高い罹患率や限局割合の高さに影響していると思われる。また、全ての部位で不明の割合が減少しているが、肝及び肝内胆管、胆のう・胆管、肺で不明の割合が高い。それ以外の部位では、適切な病期分類により、その後も適切な治療法が選択されていることがうかがえる。

図 7　部位別発見時の病期（%）：対象は国内 DCO を除く届出患者　（表 5-A、B から作成）

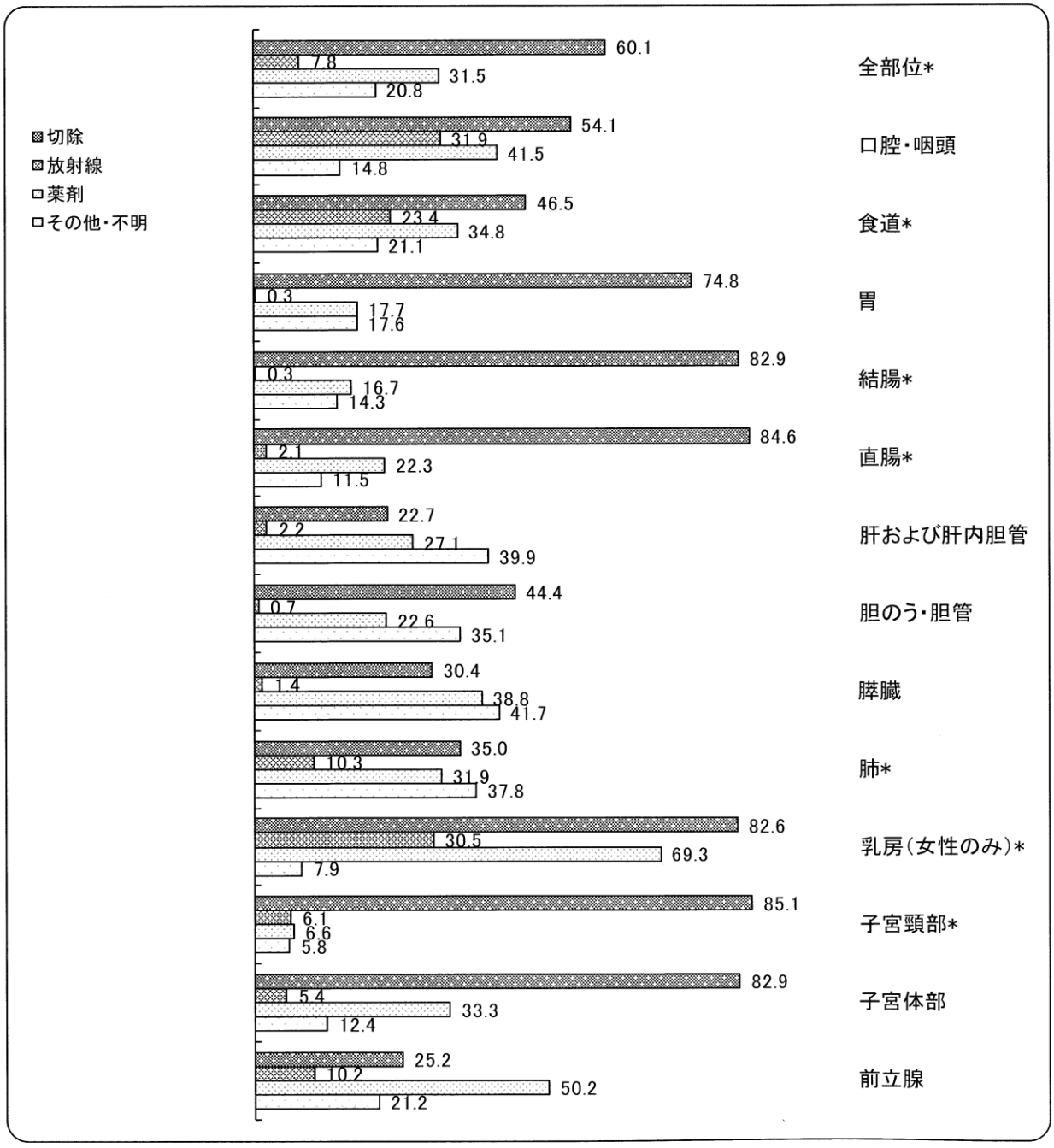




初回治療の方法

全体的に昨年と比較し切除例の減少がある。80 歳以上に罹患のピークがある部位では、薬剤や放射線による治療の割合も減少している。そのためか、その他・不明の割合が全体的に増加した。特に肺では、その他・不明が 37.8%と高い割合を示す。肺は、罹患のピークが 85 歳以上であること、初回発見時の病期で、遠隔転移が 40.7%と高い事も影響している可能性がある。一方で、65 歳以下に罹患のピークが見られる女性乳房、子宮頸部、子宮体部ではその他・不明の割合の減少があり、何らかの治療が行われている。

図 8　初回治療の方法（%）：対象は国内 DCO を除く届出患者　（表 6-A、B から作成）



＊　上皮内がんを含む

切除には、外科的、体腔鏡的、内視鏡的手術を含む。

薬剤には、化学療法、免疫療法、内分泌療法を含む。